

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第8期第5回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	令和4年7月27日（水）午前10時～午前11時30分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 304.305 会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員13名 (出席者13名) 佐藤和美、星野秀次郎、伊藤正次、砂川利広、北野信雄、安間美恵子、大竹伸佳、後藤真、山本哲也、青島邦信、金原和義、小坂教光、新居一馬(敬称略) ・ (事務局3名) 環境水道部専門官 松下 享 環境課長 鈴木和彦、主任 密岡美雪
議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度進捗状況について (2) 第2次磐田市環境基本計画後期計画の策定の進捗について
配 付 資 料 等 の 件 名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 第2次磐田市環境基本計画 進捗状況（令和4年3月） (4) 第2次磐田市環境基本計画の策定の進捗状況について (5) 第2次磐田市環境基本計画冊子※ (6) 磐田市環境市民会議ノート※ <p style="text-align: center;">※第1回配布済</p>
概 要	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度進捗状況について (2) 第2次磐田市環境基本計画後期計画の策定の進捗について (3) その他 4 閉会

<p>会 議 録</p>	<p>(1) 令和3年度進捗状況について</p> <p>【事務局】説明</p> <p>【意見・質問】</p> <p>委 員：環境指標のベッコウトンボの頭数調査について、4月25日の新聞によると、今年度は308頭確認されました。前年度の67頭より増加したということですので情報提供します。</p> <p>会 長：ベッコウトンボの頭数が増減する原因調査が大事です。気温や天候の影響等もあると思いますが、なぜ増減する基本的な生息数の増減に関する生態調査は行っているのでしょうか。</p> <p>事務局：このベッコウトンボの調査は、毎年2回、桶ヶ谷沼の全域を5つか6つの区域に分け、参加者が一斉に調査します。ベッコウトンボは3月から5月の間に羽化しますので、現実の発生数を確認するのは困難です。また調査日の気候、気温、天候によって発生数も変わると思われますが、調査結果の増減との因果関係はまだ解明出来ていないのが実情です。今後も継続して調査しながら、因果関係が明らかになるよう検討していきます。</p> <p>事務局：補足ですが、今回の資料は令和3年度の結果です。令和4年度については先程委員のお話された総数ですが、気温や雨の影響に対応出来るような保護活動を去年から始めた結果、今年の4月はたくさん羽化が確認できたという事をNPOの方と話をしたところです。今後については、こういった状況を継続出来るよう、皆で考えていきます。</p> <p>会 長：基本方針3の「自然歴史文化と触れ合う機会を作ります」の二番目の項目ですが、このアンケートは展示会の来場者や展示施設の見学者に対しておこなわれていると思います。そういった方は当然、関心が非常に高いので、満足していると思います。それ以</p>
--------------	---

外の参加していない方がどれだけ満足しているかなどを調査したほうが良いと思います。

事務局：こちらですが、文化財の企画展などに訪問した方に対して行っているアンケート結果をまとめたものになります。

会 長：関心があって参加しない方がどれぐらいいるのか。あるいは、満足するのか。それに対して施策をどう変えていかねばならないのか、そういう方向、視点も必要だと思いました。困難さを伴うと思いますが関心がある方をもっともっと開拓していく意味ではアンケートの取り方に工夫が必要だと思いました。

委 員：今、本庁舎の1階展示ホールで遠江国分寺跡特別史跡のパネルが展示されています。今回初めて見たのですが、こういった物がある事自体をもう少し市民の方に広げたらどうかと感じました。それから、磐田市の文化財課が3月29日にYouTube動画を公開しました。磐田市の文化財を守り活かす活動だと思いますが、そういったものをもう少しPRした方が良いと思います。

会 長：市の新しい取組みとしてYouTubeやWEB等様々な媒体で広報を行っていく事はとても良い事だと感じています。こんな風に発信していますよという事をまずは若い方に知ってもらうのが大事だと思います。

事務局：それでは、YouTubeのことで少し補足をさせていただきます。実はYouTubeという新しい媒体で広報を始めたきっかけは、磐田市は外国人居住者が多い街であり、市の窓口での様々な手続きについてどう伝えたらいいか検討したことが発端です。動画の方が多くの方に見ていただけるので、外国人対応の部署が作りました。それが拡散していきまして今の市長もYouTubeに力を入れている所

です。

例えば環境水道部では、下水道に関連する戦隊ものの動画を作るなど、色々工夫しています。それから、会長がおっしゃっていた、展示会等に興味をお持ちでない方の意識の確認ですが、市として定例的に市民意識調査というものを行います。意識調査の質問項目に文化財施設や展示に関する調査を取り入れたいと思います。

委員：磐田の南部では、地下水を利用した簡易水道が使われていますが、水道水の農薬残留量の国の基準が緩和されるようで、自分達の飲み水が本当に安心なものかどうか凄く気になります。地下水は、飲み水に適さない場合もあると思いますので、地下水水質調査を行った結果について知りたいです。例えば、農業で窒素肥料を使うことで地下水を汚してしまう、結果として飲み水に適さなくなってしまうというような事があるなら、農業者として注意していかなければならないと思います。あるいは工場排水が地下水に影響して飲めなくなるなら、その辺も厳しく監視しなければいけない。そういったところに関心がありますので、調査結果を知る方法を教えてほしいです。

事務局：磐田市の水道については、年に1回広報いわたで水質検査の結果を公表していますが、今おっしゃっていただいたようにそれが分かりにくいという事もあると聞いていますので、担当部署にはその旨伝えたいと思います。それから過去には、磐田原のお茶畑の肥料が地下に浸透して使えなくなった井戸があるとのことでした。但し汚染要因が肥料の影響であるかどうか、の確認はできなかったという記憶があります。実際に磐田市も水道用の井戸をいくつか所有しており、中には水質の問題で廃止した井戸もあります。本市の水道は、半分は地下水、半分は川の水を県から買って使っています。大事な井戸水が使える様に委員のご意見伺いながらきちんと管理して、皆様に安心な水を供給したいと思います。

以上です。

会 長：それに関連してですが、市民が知りたい時に知りたい情報を得る事が出来る、というような形は、多分ホームページに常に掲載しているということだと思います。そういった状況を作っておくことが大事なのかなと思いました。

委 員：1点確認をさせて下さい。今回計画の各指標で、目標達成が困難と見られるところに桃色で示されていますが、コロナの影響があるのかと感じます。ただ、ゴミの排出量についても達成困難という評価をされていますが、原因は把握されていますか。また、対策を考えているのでしょうか。

委 員：実は、半分はコロナの影響があります。コロナ過で家庭時間が増えたため、家の片づけを行いゴミが大量に出た、ということです。各地域の収集場所にゴミが増えているというよりも、クリーンセンターに搬入されるゴミが増加しましたので、持ち込まれた方に職員がお話を聞きましたら、コロナの影響であるとのことでした。また、世の中の大きな流れの中で断捨離ブームもあります。いずれにしても今回増えている分については、詳細な情報把握は出来ていませんが、窓口担当の感覚として、断捨離ブームにコロナが重なり増加したのではと予測しています。

委 員：県もこういった計画を作っていて、いくら頑張っても最終的に評価はこれらの指標値です。もちろん、こうした指標は結果として真摯に受け止めますが、コロナなどは全く想定していなかった事柄ですので、市の方も目標に向けて色々取り組んだ上での結果だと思います。ただ、致し方ない理由があるならば、最終的に市民の方々に正確な状況を説明する際には、しっかり補足しておいた方が市の取組みも伝わるのかなと思いました。頑張っ

り組んでも数字だけで評価されてしまうと辛いところもあるのか
もしれないと思いました。

委員：広報いわた 7 月号にごみ対策課の記事がありました。その中で
ごみ排出量の静岡県平均に対して、磐田市はかなり少ない方です
という記事が書かれていました。今回の結果は指標に届かない結
果となっていますが、私が考えるに元々指標の設定が高過ぎてし
まって、だから達成困難になってしまっているようなイメージが
あります。もう少し指標を下げたらどうかと思います。

事務局：計画策定当初の 5 年前は、クリア出来るだろうというところで
設定していますので、担当と次の目標を作る時には検討してい
きたいと思います。

委員：目標の達成のところでお伺いしたいのですが、基本方針 2 の都
市公園の面積です。目標の 21.27 m²に対して 15.79 m²で、黄色に
はなっていますが数字的には 2016 年からそんなに伸びてないの
かなと思いました。都市公園ってすぐに来るものではないので
恐らく計画があるのだと思いますが、来年達成出来るかどうかを
教えていただければと思います。

事務局：この目標値ですが目標値の左側に説明がある様に「磐田市緑の
基本計画」の目標値をそのまま掲載しております。平成 38 年まで
に 21.27 m²の目標で設定されています。この目標の達成が困難で
あるのは確かです。「緑の基本計画」自体が長期計画ということ
もありまして計画の変更がまだ先なので、目標がそのままになっ
ているところです。実際は、都市公園以外にも開発事業に伴う一
定規模の緑地が増えてきています。

事務局：少し補足します。達成できるかどうかの質問への回答としては

厳しいのは間違いないです。長期達成期限の中で相当上まで目指しているのです、出来れば少しずつ上がっていくような数値をお見せする事が出来れば皆さんにも現実感があると思っただけですが、今の政策の展開の中では目に見える様な、こういった面積というものは、できたときに一度に増え、それ以外は増えないという変動をしますので、なだらかな比例勾配にはならないですが、担当部署がここに向かってこつこつと準備しています。今ここで何かと言えないですが、頑張っている事をこの場では言わせていただきます。なおこれは一人当たりの面積なので人口増減に左右されます。次の後期計画の策定については、もう一度担当部署と合わせて議論したいと思います。

委員：発生状況に対するコロナの影響が気になっていまして基本方針3の指標値が参加人数700人となっていると思いますが、今後この結果を振り返った時に236人の根拠として、中止した回数を補足の方に入れておいた方がいいのではないかと思った次第です。

事務局：ありがとうございます。今後減少した理由について、数字の根拠を掲載させていただきます。

委員：ゴミ対策の件に関してです。自治会の集積所でゴミを集めますが、磐田市は分別に非常に厳しいので、それを徹底することを住民にお願いすると、集積所に入れずに捨ててしまう例がある。私も道路を通る度に不法投棄ゴミを拾っていますが、厳しくするほど不法投棄が増える気がします。幹線道路だけは、シルバーさんが回収していますが、もう少し考えてもらいたいなと思います。

事務局：ゴミは、環境問題の根本の一つだと認識しています。おっしゃる通り分別が厳しくなると不法投棄が増えるとか好ましくない事に繋がると認識しています。その中で皆さんにどのように協力

をしてもらうかそれが子ども達の未来の負荷をどう下げていくかずっと考えなければいけない問題だと思います。今頂いた意見を含めまして担当部署と協議をしていきます。因みに最近磐田市の分別は変わっていませんが、全国的に厳しくなっている傾向があり、全国の基準が磐田市の取組みに追いついてきている管があります。

委員：私の地区では環境美化が年2回あり、毎年海岸や坊僧川河口付近などの美化を行います。大変多くのプラスチックごみがあるのですが、こうしたごみは上流から流れてきます。下流にある地域だけで掃除しているのは、おかしいと感じます。もちろん、上流にある市街地でも掃除してくれますから、基本的には減っているのだと思いますが。皆さんの意見を聞きたいです。

委員：私もお隣の地域である浅羽海岸クリーン作戦に参加させていただきました。今、委員が言われたように大雨が降った時、河川から流れて来る流木やプラスチックがありまして、いたちごっこです。しかし、そういった美化活動は、参加する人、例えば中学生や小学年が参加する事で意識改革、教育的効果があると思います。そこで取ってもまた上から流れて来る、そういった事があるでしょうが、磐田市内全域で意識を変えていくことによって、クリーンな街になっていくと考えています。

会長：意識改革は、大変重要な事柄です。下流の地域だけが清掃を担当する、その事自体がおかしいのかもしれませんが。街全体で海岸を清掃すると、海岸から遠い地域の人達も自分の行動が下流にまで影響しているのだと知る機会になるかもしれません。

委員：基本方針6環境教育に取り組む学校の割合で100%になっていますがどのような環境教育をしているのか知りたいです。小さい時

からゴミについてしっかり考えて、ごみの分別やマナーなどを身に着けてほしいと思っています。ごみ対策課の方もそれに賛同したらどうかなあと思いました。

事務局：基本方針6の「環境教育に取り組む学校の割合」、これは小学校における環境教育のことですが、この中に磐田市が協力している「アース・キッズ事業」というものがあります。その内容は、子供たちに地球温暖化について「今、このような気候変動が起きている」と説明をしたうえで「皆で出来ることを考えてみよう」と問いかけ、その中でゴミを減らすことも対策になることを教えます。そういった形でゴミの分別を子供たちに説明しています。

事務局：「ごみ対策課のこと」について補足します。磐田市は小学校4年生全員をクリーンセンターに来ていただきクリーンセンターの見学会という形でゴミに関する環境教育を実施しています。ごみ対策課としては子供たちにその内容を覚えてもらうことも重要だと考えていますが、子供たちが家に帰った後、親御さん等家族にそれを話してくれるとより波及効果があると考えております。この見学会は今後も継続していくことなので、磐田市の小学生は卒業するまでに1度は必ずクリーンセンターでごみ教育を受けていることとなります。

委員：基本方針2に市内の耕作放棄地面積のことが記載されているのですが、耕作放棄地面積を減らすことがどう環境に良くなるのかが、分かりにくいので、説明をお願いいたします。

事務局：ありがとうございます。こちらの「市内耕作放棄地面積」の基本方針2の部分でございまして、農地を健全に保つという意味がございまして、それが意味、緑地を保全することに繋がりますので、指標にさせていただいております。

事務局：補足します。空いたままにした耕作地と手入れをされた耕作地を比べると、わずかですが、手入れをした方が二酸化炭素削減の効果がございます。実は、それよりも問題になっているのは耕作放棄地に向けた不法投棄です。放っておかれて草が伸び放題になっている土地はかなりの不法投棄がありますので、解消をしていただく、緑地保全に加えて不法投棄を減らす事が出来るという事です。

委員：ありがとうございます。不法投棄が増えることは確かにあるのかもしれませんが、農業がそもそも環境にいいかという話なのです。普通の農法だと化学肥料や農薬、除草剤を撒いて環境に負荷をかけながらやっていく。有機農業が広がって農地が保全されるのであれば話は分かりますが自然という点では耕作放棄地の方が自然のままであり、環境には良いのではないのでしょうか。一農業人として思う所があり、不法投棄のこととは別に考えるべきではないかなと思います。

委員：一般の方は農業を行うことは環境にいいことであると勘違いしがちです。だから皆、農業に多量の化学薬品が使用されているために水が汚染されてしまうこと等、環境へ悪影響があることを知らない。だから委員のような専門の方々がおrganic農法などの自然農法が一般的な農法に比べていかに周囲の植物、動物や大気に良い影響を与えるのかを知識として広めないとい一般の非農業従事者は知らないままです。

委員：国も緑地政策として農業人口の拡大を打ち出したので、今後増々多くの人に正しい知識が身につけばいいなと思います。

事務局：ありがとうございます。参考にさせていただきます。

会 長：これからの大きな課題をいただいたような気がします。ありがとうございます。私から質問させていただきます。「エコアクション 21」のことです。これの認証登録について記載されていますが、この認証登録は実際の所増えているのでしょうか。

事務局：静岡県内では認証登録が盛んです。その中で磐田市は昨年、10年目の認証をいただきました。他にも ISO 等の認証がありますが、静岡県ではエコアクション 21 の認証割合が多いです。ただ、自治体によっては独自の環境評価基準を作り、その条件下で施策を推進するやり方をしているところもあります。一概にエコアクション 21 でなくてはということはないのですが、認証を継続する取り組みが環境負荷低減につながることは間違いないので、これからも推奨してまいります。

会 長：要は認証環境を整えていく時に、産業界の方々がどの程度協力してくれるのかが大きな影響を及ぼすわけで、その辺りの実態を知りたいなと思った次第です。このような環境運動に産業界が率先して参加してくれる磐田市であってほしいなあと思いました。

(2) 第 2 次磐田市環境基本計画後期計画策定の進捗状況について

【事務局】説明

【意見・質問】特になし

(3) その他

委員より、食品ロス削減の事例等について紹介があった。